

おぎはら耳鼻咽喉科の言語聴覚士(ST)が月1回発行する『カスタネット通信』第5号です。あっという間に1年の3/4が過ぎ、読書の秋がやってきました。10月号は絵本特集です。秋の夜長に絵本はいかがですか。

言語聴覚士(ST)と絵本

毎月数冊ずつ増えていくオギジビ文庫。「今月のおすすめは何かな？」と親子で楽しそうにお話をしている声を聞くと、私達も嬉しくなります。絵本は子ども達にとって、どんな存在なのでしょう。お父さんやお母さんに読んでもらう楽しい時間、リズムカルなことばを楽しむ、きれいなかわいい絵を楽しむ、色々あると思います。

STの養成課程では、4年次に臨床実習というものがあります。1カ月程度、STが働く施設に行き仕事の実際を学ぶのです。私が行ったのは秋田県の難聴のお子さんがたくさん通う施設です。周りに海、川、山、畑、動物園まであるので、夏が終われば枯れたヒマワリを刈り取ってその種を並べて数の勉強、砕氷艦しらせが秋田港に寄港すれば見に行く、秋になればブドウ狩りやリンゴ狩り。子どもたちの生き生きとした表情を見ていると、ことばの学習と生活が密着しているな、と感じました。クリニックでのSTの個別指導ではなかなか実地体験は取り入れられません。そこで絵本の登場です。なかなか体験できないことを絵本を通じてイメージしてもらおうのです。

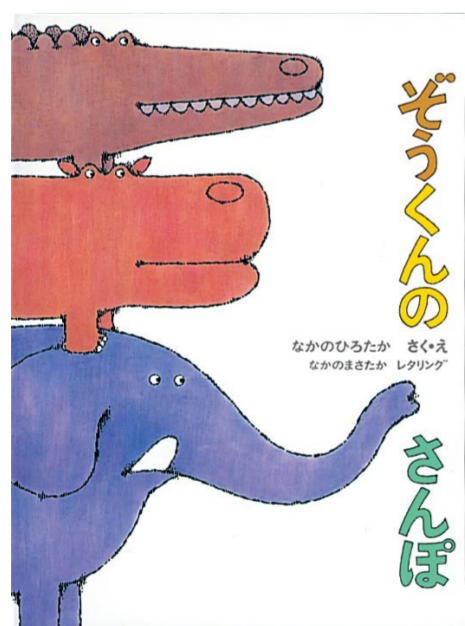
私がよく教材として用いている絵本を何冊かご紹介します。



『サンドイッチサンドイッチ』
小西英子 作 福音館書店

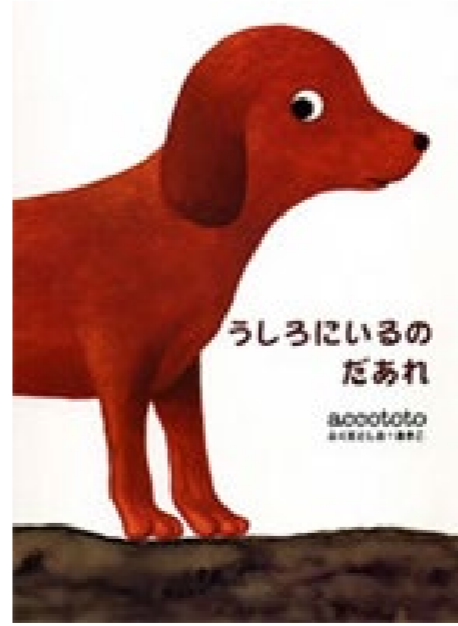
赤、黄色、緑、白、“色彩”豊かな食べものたち。まる、三角、四角、“形”も様々です。“いくつ”挟んでサンドイッチを作ろうか？おうちで再現すると楽しいですね。

絵本は注目する点を変えれば長く楽しめます。



『ぞうくんのさんぽ』
なかの・ひろたか作・絵
福音館書店

「のせて」「いいよ」というやり取りを試みるのもいいですね。



『うしろにいるのだあれ』
accototo
ふくだとしお+あきこ 作・絵
幻冬舎

だれの鼻？だれの耳？動物の名前の当てっこが楽しめます。

日常生活で経験し、強烈な印象を残したことは記憶にとどまり易いと思います。ことばを覚えることが苦手なお子さんは、家族旅行、遠足などで経験したことを、絵本を通して再体験させてあげるのも良いかもしれませんね。



『こぐまちゃんとどうぶつえん』
わかやまけん 作 こぐま社

ぞうさんは何をしてたかな？きりんさんは何をしてたかな？
どうぶつの特徴をお話ししたり、みんなはどうするかな？
と考えたり、会話が弾みますね。



絵本のはなしはきりがありませんが、最後に私が出会った印象深いお子さんと絵本を紹介します。

『カレーライス』小西英子 作 福音館書店
3か月ごとに受診していた男の子。毎回来るたびにニコニコ笑顔で、第一声は「カレーライス」。課題終了後、「もう1回」に応え2~3回読むと満足して帰りました。カレーが好きなのかな？おうちでカレーライスの先生のところに行くよと言われているのかな？とSTの想像も掻き立てました。

といっても、絵本は本来楽しむものだと思っているので、勉強っぽくならず子どもたちにたくさんの本と出会って欲しい、そして絵本を通して想像の世界でたくさんのことを経験してほしい、そんな願いを込めてオギジビ文庫を設置しました。

みんなのおすすめ絵本

この夏、STがお会いした方100人(こどももおとなも)に、好きな絵本を聞きました。みなさん最初は「好きな絵本？」と戸惑われますが、多くの方がご自身の経験とともにその絵本に対する熱い想いを語ってくださいました(親の代弁も含め)。

結果発表です！うすうす感じてはいましたが、みなさんそれぞれお気に入りの本があって、なかなか同じ本は出てこない！そのような中、7人の人が挙げたのが…



7人



3人



2人



シリーズの絵本としては『のんたん(6人)』『こまったさん(3人)』『アンパンマンの絵本(2人)』などが挙げられました。残りの59冊は全部バラバラ。カスタネット通信の紙面では足りないなので、クリニックで紹介したいと思います！

編集後記：みなさんに教えてもらった絵本、読んだことがないものがたくさんありました。ぜひ読んでみたいと思います。



おぎはら耳鼻咽喉科